

優秀賞

島田 果歩(しまだ かほ) 上柚木小 6年生

作品名:「モモ」を読んで

図書:モモ

わたしは毎日いそがしい。学校に行かないといけないし、勉強しないといけない。ピアノを習っているからピアノの練習もしないといけない。でもすいみんもしっかりとらないといけない。やりたいこともいっぱい。たくさん本も読みたいし、友達とも遊びたい。ユーチューブも見たいし、ゲームもやりたい。一日二十四時間では足りない。だから一日の計画を立てて効率よく無駄なく過ごせた日はとてもいい日だ。

そんな毎日の中で出会ったのが「モモ」だ。とても印象に残っている言葉がある。「時間とは、生きるということ、そのもの」という言葉だ。だから、時間どろぼうによって時間がうばわれるということは、生きることをうばわれるということなのだ。自由な時間をつくろうともがく気持ちや、必要以上に時間を欲しがる欲望は、時間どろぼうがずるい手を使って人間から時間をうばっていく姿に似ていると思った。最近の社会の人たちは時間どろぼうになっているのではないかと思う。効率化や時短がとても良いことだと考えているからだ。効率的に動いてどんどん暮らしや地域を発展させていくことが一番の幸せだと考えている。自分も無駄な時間がなく効率的に時間を使った日が一番いい日だと思っていた。それが悪いことではないと思う。でも一番の幸せでもないと思った。

コロナウイルスのせいで学校が休みになって多くの時間が生まれた。何もせずにゆっくりと過ごす時間、家族とたわいもない話をしてただ一緒にいる時間、将来のことを何となく想像している時間、そんな時間は長く感じられ、心が安らぎ充実した気持ちになった。「時間とは、生きるということ、そのもの」なら、幸せだと感じる時間が大切だと思った。モモのように何にもないところから発想を広げて楽しむ子供たちは、時間の本当の大切さを知っている。時間どろぼうを止められるのは想像力が豊かで純粋な子供だ。だから何もしない時間、ゆっくり過ごす時間を持つことによって、大切なものに気づいたり、いそがしい毎日のエネルギーを作ることが

できるのだと思う。

私は昨日で十二歳になった。四月からは中学生だ。勉強も大変になるだろうし、部活も始まる。ますます時間に追われる日が増えそうだ。でもこの夏出会った「モモ」を時々思い出したいと思う。「時間とは、生きるということ、そのもの」なのだから、時々立ち止まって本当に大切なもの、本当の幸せを考える時間を持ちたいと思う。